

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 1月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0570209015
法人名	有限会社ケアサービスおちあい
事業所名	グループホームおちあい
所在地	〒016-0014 能代市落合字上釜谷地187番地2 (電話) 0185-52-8212
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成21年1月14日

【情報提供票より】(H21年1月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年11月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250円	昼食	350円
	夕食	400円	おやつ	0円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(H20年12月30日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名	
要介護1	2名	要介護2	3名			
要介護3	2名	要介護4	1名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	83歳	最低	71歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白坂内科胃腸科医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

バランスの取れた運営・サービスを行っているというのが全体的な印象である。利用者の生活ペースを尊重した支援と、無理をしない範囲でホームとしての日課をきちんと行っていこうという方針が、利用者の心身の安定に繋がっている。日課のレクリエーションはパズル、折り紙、計算、ゲームや軽運動等とメニューが多く、健康管理については日々のバイタル・食事量・水分補給・排泄チェック等を行っていた。運営者は職員の資質向上に前向きであり、研修参加・資格取得に理解がある。なお、症状の重度化・終末期の対応については、関係機関へのスムーズな移行等に努めることとしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価結果を運営推進会議の議題とし、より良いホームづくりに資するための材料として活用している。自己評価においても、取組んでいきたい課題を明確にしており、改善に前向きである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議からの意見を地域交流に活かしていきたい等、具体的な課題をいくつか持っていた。外部からの視点をサービスに繋げたいという意欲が感じられる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回の割合で運営推進会議を開催している。自己評価や外部評価の結果とそれに対する取り組み、行事の連絡や報告など、議題を工夫しながら意見を出しやすい会議となるよう努めている。市町村担当者との情報交換を密にし、ホームの運営やサービス内容の充実に資することとしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	月々の利用料はホームに持参いただいており、家族との情報交換や意見聴取の機会としている。ホーム便りには写真が多く、利用者の暮らしぶりやエピソードも載せられている。家族からの意見等は面会時の口頭によるものがほとんどであり、改善に向けた工夫にも前向きである。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会のない新興住宅地にあって、運営推進会議の実施、ホーム便りの配布、日常的に挨拶を行うなど、地域との交流に努めている。近所の住民が、家族の体調変化に気づいてホームに連絡し、職員が救急対応の応援をしたこともあり、地域の一員として認知されている。今後は、防災訓練等を契機として更に地域住民との連携を深めていくことも期待される。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成15年の開設当初に定めた理念に基づき、利用者本位のサービスに努めている。理念は玄関の見やすい場所に掲示され、職員のみならず、家族・地域住民などの来訪者にも理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設当初からの職員も多いが、型にはまったサービスに陥ることがないように、処遇に迷った時やカンファレンスの場では理念を確認するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会のない新興住宅地にあつて、運営推進会議の実施、ホーム便りの配布、日常的に挨拶を行うなど、地域住民との交流に努めている。近所の住民が、家族の体調変化に気づいてホームに連絡し、職員が救急対応の応援をしたこともあり、地域の一員として認知されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果を運営推進会議の議題とし、より良いホームづくりに資するための材料として活用している。自己評価においても、取り組んでいきたい課題を明確にしており、改善に前向きに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の割合で運営推進会議を開催している。自己評価、外部評価の結果とそれに対する取り組み、行事の連絡や報告など、議題を工夫しながら意見を出しやすい会議となるよう努めている。</p>		<p>運営推進会議の意見をホーム運営に活かしたいというテーマを持って取り組んでいる。地域交流の推進に意欲的であることから、今後は地域の同業者とのネットワーク強化も併せて検討・実践しながら、運営推進会議の内容にも反映させていくことも期待される。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者とは、運営推進会議のメンバーとして2ヶ月に1回の情報・意見交換を始め、日常的に連絡を取り合える関係づくりに努めている。</p>		
<p>4.理念を实践するための体制</p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月々の利用料はホームに持参いただいております。家族との情報交換や意見聴取の機会として、ホーム便りには写真が多く、利用者の暮らしぶりやエピソードも載せられています。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書にホーム内及び外部の苦情受付窓口が案内され、苦情受付箱も備えられている。家族からの意見等は面会時の口頭によるものがほとんどであり、改善に向けた工夫にも前向きに取り組んでいる。</p>		<p>口頭による意見であっても、検討や改善までの経緯を含め記録として残していくことが望まれる。そのことにより、ホームの改善努力の結果をより明確にし、職員の励みにもつなげていくことが期待される。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動はないが、職員の入替わりはあった。職員の異動が利用者にも与える影響についても理解しており、利用者が徐々に馴染んでいける努力をしている。家族への情報提供を速やかにすることで、更なる信頼関係の向上が期待される。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、職員の研修参加・資格取得に理解がある。介護技術等のCDを職員に貸し出したり、勤務ローテーションを工夫し、職員が介護福祉士・介護支援専門員などの資格取得に取り組む機会を設けている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>内部研修として、同業の管理者を講師とした勉強会を開催しているが、職員間の交流や情報交換等の場を設けるには至っていない。</p>		<p>同業者との意見交換を行うことで、自らのサービスの長所や課題が見えてくることもあり、職員の仕事に対する意欲向上にも資することから、交流の機会を設けていくことが期待される。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居して間もない利用者には、ホームの日課やルールを押付けることなく、周囲に馴染めるようになってからレクリエーション等の日課に入らせていただいている。本人や家族の希望・意見を尊重する取り組みに努めている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員はレクリエーション等の日課を共に行いながら、利用者とのより良い関係の構築に努めている。家族との交流や情報交換にも工夫を凝らしていこうという意欲が認められる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者及び家族からの聞き取りから、本人の生活史、馴染みの人や物、考え方などを把握している。職員は普段の会話を大事にし、対話の時間を惜しまずに対応している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時のアセスメントに加え、利用者や家族からの情報も記録にとどめ、介護計画を作成している。「認知症介護研究・研修東京センター方式」の様式を用いた詳細な個人記録に加え、身体状況・行動等の整理票を職員が日々作成しており、計画見直しの根拠資料としている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝の健康チェック、服薬・食事量・排泄等のチェックを欠かすことなく行い、6ヶ月に1度の見直しや、状態の変化に伴う都度の計画変更の参考としている。作成に当たっては、利用者や家族の意向を尊重するよう努めている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの機能・事業として、可能な範囲で利用者及び家族の要望に応えられるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設当初からの協力医療機関が2週間に1回の往診を行っている。また、認知症の対応に関しては近接の総合病院から協力を得ている。歯科医師や薬局との協力関係も良好であり、ホームの准看護師が医療関係者との連携の中心となっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では、重度化や終末期への対応は行わない方針としている。症状の重篤化に際しては、家族の意向を尊重しながら速やかに関係機関と協議をすることとしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々人に合わせた言葉かけや対応に努めている。レクリエーションやゲームの場面でも、利用者の参加意欲や心身の状態に配慮した対応を心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを優先した離床・食事・外出・排泄・入浴等の支援に努めている。利用者ができることを見守り、支援し、褒めることで生活意欲を高めるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きな物を献立に取り入れ、彩りよい盛り付けと一手間かけた調理を行っている。利用者は調理の準備・片付け等、できる範囲で共に家事を行っており、楽しく食事ができる雰囲気づくりを実践している。また、食事にむせることのないよう、一人ひとりのペースでゆっくり食べられるよう支援している。		地場の食材やホームの菜園で収穫した野菜を使い、一手間かけた調理を行っている。こうした「スローフード」への取り組みはホームの特徴であり、今後も継続を期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施しているが、利用者一人当たりでは週2回のローテーションである。利用者の健康状態やペースを尊重し、無理のない入浴支援をしている。必要に応じて、清拭・足浴もしており、清潔の保持に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が、個々の得意なことや生活史を踏まえた役割を持てるように支援している。また、日課となっているパズル、折り紙、計算、ゲームなどのレクリエーションや気晴らしのドライブを楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周囲は見晴らしが良く、道路の傾斜も少ないので、利用者は無理なく散歩等の外出ができる。買い物やドライブで外出することもあり、希望があればホームで立替えをして買い物を楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	居室には鍵をかけず、玄関は夜間のみ施錠している。ホームとしては利用者の安全な生活が第一であると考えている。その一方で、身体拘束や居室・ホーム内を日中施錠することの弊害も理解しており、マニュアルの整備や研修を実施することで職員の理解・認識に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力を得ながら、年に1回の防災訓練を実施している。消火器や消防署への通報システムも整えているが、地域住民の参加、非常口の段差への配慮、夜間の避難訓練等への更なる取り組みも期待される。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>健康チェックとともにラジオ体操や軽運動を日課に取り入れ、水分補給を十分に行うことで便秘等の予防に配慮している。服薬支援や義歯洗浄についても、職員が適切な管理に努めている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム内は清掃が行き届いており、不快な臭い、汚れ等は見られないが、空気の乾燥に対する配慮も望まれる。ホーム内はバリアフリー仕様で、調度品は危険がないよう面取りされている。夏はホーム正面のケヤキ並木が日差しを和らげ、ホームの畑には季節の野菜が顔を揃えている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者が持ち込んだ家具が置かれ、家族の写真などが飾られていた。今後は更に、利用者の経験や生活史を感じ取れる持ち物を活用し、職員が会話を深める機会としていくことも期待される。</p>		

は、重点項目。